



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

お盆は 故郷の音にあい 親に会い

真実のみ親に会う 仏縁です



八月は故郷に心惹かれる季節ですね。マスコミではUターン・ラッシュやお墓参りがしきりに報道されますが、帰る場所があるのは人間として有難いことです。帰りたいと思うのは待つ人があるからでしょう。「帰っておいで」「待ってるよ」という故郷の音が聞こえるからこそ帰郷なのだと思ふのです。

ど、父親は悲しみと共に、不思議な喜びを感じる事ができたそうです。

心の琴線に響くのは、空間としての故郷ではなく、故郷の思い出とともに蘇る昔懐かしい音、我を喚ぶ声なのです。

週末、早朝のラジオ放送で「音にあいたい」という番組があります。リスナー(聞き手)のおたよりを基に懐かしい過去の思い出を音でたどります。「音にあう」とは一見奇妙な表現ですが、奥行き深い内実を含んでいます。音は自ら耳で聴くものだと考えるのが一般的ですが、本質的には聞こえる世界、遇う世界なのです。視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚の五感の中で、聴覚だけが生涯を通して最も長く、且つ深く働く、といわれます。交通事故で脳死状態に陥った子供に父親が人工呼吸を施したとき、「〇〇ちゃん、おとうさんだよ」と叫び続けたら、脳死の息子さんの顔がほころび、一瞬笑顔がこぼれたそうです。結果的に子供の命は戻らなかつたけれど、

人間が生まれて初めて聞く音は、親から喚ばれる我が名前と親の名告りだと、孫を授かって初めて気づかせて頂きました。両者は時間的前後関係というより、表裏一体の関係と言うべきでありましょう。赤ん坊は幾度となく喚び声を聞くうちに、精一杯の慈愛が込められた親の喚び声と名告りを本能的に肌で実感できるようになります。つまり、「音にあう」ことがそのまま「親に遇う」ことであります。

これは我々が人間として育てられ過程で受容される事実ですが、同時に、南無阿彌陀仏という大慈大悲のみ親の名告りがそのまま、我が名を喚ぶみ声であった、と深い慶びを賜る仏縁でもあります。

仏法聴聞の受け止め方には深化する3つの段階がある、と某師(故人)から

聞かされました。「ふん、そうか」という知的受け止めに始まり、「なるほど、そうか」と領解され、「やっぱり、そうか」と領解が深まり、真実の帰依処が明らかになる、ということでした。



フोटグラフ

上:東海仏教音楽の集い
下:亮爾誕生祝賀会



☆行事ご案内☆

秋季永代経 講師・加藤正人先生

8月18日(土)午後1時半・夜7時半

19日(日)午後1時半

※お経開きは18日(土)午前10時半(関係者)

「お磨き」と打ち合わせ 8月5日(日)午前8時より1時間程

◇キッズサンガ8月4日(土)午後4時より

お友達も誘ってきて下さい。 毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 8月7日(火)午後1時半 智積西勝寺様

9/3(月)、10/2(火)、11/5(月)も練習あり

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。

「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設4年で7万9千訪問、一日平均100ほど、悩み相談もOK。

☆長男潤爾の初著書『読んで旅するヨーロッパ』(三学出版)6月下旬発売。2千円。歴史的考察を加えた本、表紙は若嫁

【一縁会テレホン法話】059・354・1454お電話を!

3分間で法話が聞けます。

(門信徒会費の集金のお願い)

小杉在所、お盆前に新行事さんが訪問
近隣、世話方さん二名が8/5午前中に
四日市市内、住職と行事長が日時は葉書で連絡
どうかよろしくお願ひします!

ご都合の悪い方はお寺までご連絡下さい。

坊守スケッチ



鏡の不思議さ

るが、紙面の関係で省略する。

生後4ヶ月の初孫と遊んでいると、新しい発見がある。鏡の前に連れていくと、くるりと顔を反らす。今度は向いた方向に鏡を見せるとまたしても同じ反応。よほど恥しいのかしら？映った顔がまだ自分であるとは認識していない。発達心理学者によると、生後8ヶ月頃から鏡と遊べるらしい。

人間が初めて鏡を見るようになったのはいつの時代からだろうか？『松山鏡』という落語に、鏡にまつわる面白い話がある。一部を紹介しよう。

「越後松山村の正直正助は42歳。両親が死んでから18年間ずっと墓参りを欠かしたことがなかった。親孝行振りがお上の眼に留まり、褒美を取らせることになった。『何が欲しい？』とのお尋ねに、お金も着物も田畑も、何も要らないと拒否。強いて尋ねると『死んだお父さまに会いたい！』無理難題と分かっていたが今更引き下がれない地頭は、45歳で死んだ父親が今の正助と瓜二つであることを聞く。

そこで思いついた褒美が鏡！生まれて一度も鏡など見たことのない正助は、鏡を見た瞬間、親父が出てきた勘違いして涙した。地頭は『子は親に似たるものぞ 亡き人恋しき時は鏡を見よ』という歌を添えた。その鏡を誰にも見せると教えて下げ渡した。この落語にはその後面白い展開があ

るが、紙面の関係で省略する。私達も歳を重ねると次第に「近頃親に似てきたねえ」と言われる。それは単に容姿だけではなく、やることなすこと、話し言葉までもそっくりらしい。「子は親の鏡」と言われるが、知らず知らずの中に、親の背中を見て育っている。そう思うと親の責任は重大だ。ご門徒さん宅の仏間には、先祖代々の遺影が掲げられている。自分のルーツに囲まれ、静かに仏前に手を合わせ時、何故か心が落ち着く。鏡が外見を映し出すものであれば、仏壇の前に座るのは、自分の心を映し出す鏡に出会った瞬間なのである。亡き先代住職(渡辺尚爾)の歌集に次のような詩がある。

『鏡』

鏡に映る わが姿

にっこり笑えば 向こうも笑う

睨みつければ 睨んで返す

思いまわせば 浮世は鏡

泣くも笑うも 我次第

「自分が蒔いた種は、自分に返ってくるのです。これを因縁、因果と申します」という後注が添えられている。実に短い詩であるが、ピタッと私の心に当てはまり心に残る言葉である。

人間は鏡を持つようになってから、外見を気にするようになった。他人からどう評価されるかが最大の関心事。少しでもよく見られたいと背伸びす



る。しかし内面を映し出す鏡は、ありのままの自分を映し出す。仏法を聞かせて頂き、手をあわせることで、自分の醜さ、愚かさを気付かせてもらう。聴聞を重ねて『心の鏡』を磨こう。

☆寄稿

四日市市川崎孝一

☆大戦や 悲惨の局地 慰霊の日

琉球あさがお 庭に咲き初む

☆頬緩む 無垢な笑み為さる

亮爾ちゃん 歳の差忘れ

☆隊列の要に 益荒男 五名据え

和氣藹々の 三重組コーラス

☆由来聴く 宇陀の古刹に

呼応して 雰困気醸す 初夏の鶯

♪三重組コーラス♪

☆練習・智積西勝寺様 午後1時半

8月7日(火)・9月3日(月)・10

月2日(火)・11月5日(月)・

※11月15日夜、西勝寺報恩講演、

※1月22日京都御堂演奏会9回目

お悔やみ申し上げます

★秋月耕二様(3月16日亡・62歳)

四日市市 合掌

★館貞子様(6月17日亡・87歳)

小杉(合掌)

★川畑英雄様(7月2日亡・83歳)

四日市市(合掌)

☆ホットニュース☆

☆6月23日(土)「亮爾誕生祝賀会」&懇親会がユラックスで41名が参加して和やかに開催。この日の主役亮爾は大勢の人に囲まれ、神妙な顔付きで皆さんに紹介。宴会はカラオケで多いに盛り上がりました。お土産は出来上がったばかりの父親潤爾の新刊本。

☆長男潤爾の初めての著書『読んで旅するヨーロッパ：イタリア、フランスを中心に』(三学出版・定価2千円、新発売)ヨーロッパを単なる観光だけではなく、深い歴史的考察を加えた一味違った本。是非一度お読み下さい。7/7中日新聞一面下段広告に小さく紹介され、83歳の女性門徒さんがわざわざ注文して購読。その温かい真心に感謝感激！

キッズサンガ・杉の子合唱団
☆8月4日(土) 午後4時より
友達を誘って来てね！鐘撞きは年中無休で夕方5時。褒美にガムや飴

☆カンパ有難う☆
柴田美津代様・結城三春様・KT様・林様・加藤様・水谷様、他匿名様お志葉書・切手有難うございました

平成24年度今後の主な行事予定
◇「秋季永代経」8月18(土)午後と夜・19(日) 午後加藤正人師(桑名)

◇「報恩講」11月2日午後1時半と夜6時半・3日午前10時・午後1時三全
仏婦報恩講 講師大島信隆師(岸和田)

今年から報恩講が11月に変わりますので、よろしく願います。
◇「秋勧進」11月23日午前
◇「お内仏報恩講」12月1日(土)夜

今年もお金が巡って来ました。節電の夏お変わりござい
いますせんか？初孫亮爾も生後4ヶ月になりお喜びさまで
順調に生育しています。自称「育バア」の私は最良の子
守法を次々に試し、毎日が驚きと発見の連続です。
自分の子育て中には経験できなかったふれあいを楽しんで
います。先日「老いるショックは3度くる」（江見康一著）という
本を読みました。60代、70代、80代、人生の後半に突如
襲いかかる老いるショック、いやその後も続く認知症、そ
れを乗り越えるには若い時からの長い準備体制が必要
だと提唱しています。つまり「健康」「金」「心の張り」の「老
後への持参金」です。心身共にバランスよくこれらが
保たれた時に健やかな老後が送れます。私が最近心掛
けていることは黄色信号は渡らないことです。「また行
けるには」もう遅い」と判断して次の信号を待つ心のゆ
とりを持ちます。それと欲張って同時に二つのことはしな
い。動作も鈍くなった今は欲張りは失敗の元です。この
「クワラム」と丁寧な仕事を片付けることが、一日一日を
大切に生きていくことに繋がります。またこれは人間関
係にもよい影響を与え、と縁を大切に育てる心を
生かします。準備万端用意しても別れは突然やそ
きもす。その時慌てないためにも今からしっかり心掛け
ましょう。八月の行事予定として18日、19日「永代経」（加藤
正人先生）皆林のご参詣お待ち申し上げまします。
向暑の折くれぐれもご自愛下さいませ。合掌
平成二十四年八月 善正寺坊守拝